《福井市の公民館に思う》

私と公民館とのご縁を振り返る

元福井市教育次長（社会教育担当）
元福井市教育委員会社会教育課長

花　木　鐵　男

私と公民館との「出会い」は、高校を卒業して足羽郡足羽町役場に奉職した後、地元「六条支所」に配属され、兼務職員として「公民館主事」を拝命したことに始まる。主事としての業務は、年に一度の「体育大会」の段取りと年３・４回程の「区長会」の世話であった。そこで、当時青年団の演劇活動について仲間たちと語り合ったり、保育園で園児に16ミリ映画をしたりもしていた。その他にも、小学生を下校時に公民館の２階に呼び、映画や物語の話をするなどして、農繁期、家族から喜ばれたことを記憶している。子どもの参加人数の増加に伴い、子どもたちが自主運営できる体制を考えた。高学年を中心に準備委員を作って、希望する内容をプログラム化し、自主的に活動ができるようにした。その後、活動が定着し始めたので、「あけぼの会」という組織を立ち上げ、幼稚園の先生などの応援を得て、文化活動やスポーツ活動に取り組んだ。青年団員と共にキャンプをするなど、子どもと青年の交流を図ったのが、若き青春時代の思い出である。

本庁勤務後も、青年団活動は相変わらず続け、「足羽町青年団長」に推され、活動を行った。その後、教育委員会に異動して「一乗谷朝倉氏遺跡」の発掘調査の担当者となった頃には、当時の町長の理解と仲間の支援を得て、「福井県連合青年団」の役員に推され、最終的には「団長」となった。

福井市合併の時、水道部勤務を経て１年後、教育委員会社会教育課の主事となった。課の中には青年団で一緒に活動していた仲間がおり、公民館主事の前歴もあったので、仕事を進めるにあたって、すぐに館長・主事の皆さんとは馴染むことができた。当時、指導係の立場にいた私は、地域住民と共に活動を進めるという姿勢と「地域づくり・まちづくり」を大切にする視点で、ブロック会などで、公民館まつりのあり方・研修会等の企画などについての話し合い論義を進めてきた。

河川課に異動し、エコ活動の視点から荒川への緋鯉の放流、小学校児童向けの「九頭竜川」の発行等、社会教育・学校教育・公民館との連携を図るべく心がけてきた。その後、少年自然の家の所長を経て、３年後、古巣の社会教育課へ課長として迎えられた。仕事内容に戸惑いはないが、公民館施設の建設・社会教育施設の管理運営などの責任の伴う役職であった。数多い課題・解決困難な問題点の数々、その中身はおのずと身分や待遇・勤務体制の問題となってくる。市公連役員との協議や市長部局とのすりあわせで難題にぶつかることもあったが、中央公民館長も併任していたので、姿勢は常に公民館側に立ち、行政交渉も行った。幸い市長以下行政役職員の理解も得て、体制作りはできたと思っている。県内で先がけて行った「半官半民」の公民館体制は今でも生きている。

私は今地元で「六寿会」という老人会の活動をしている。老人会会合で元館長・主事さんと出会うことがある。青年団から老人会まで、当時を思い起こし懐かしく語り合えることに喜びを感じている。